

# HOPES

ホープス セカンド  
2nd

## 乗り越えた後に成長がある

菅野 竜生さん（佐須）

キックボクシングを始めたのは小学5年生の冬。避難先の近くにあったジムをのぞいたのがきっかけです。ジムの会長・菊地誠さんの指導で、キックボクシングと空手に打ち込みました。菊地さんは「何より練習熱心。とめないと練習をやめない」のだそうです。

そして一昨年には、国際キックボクシング文化振興協会主催の全国大会でライト



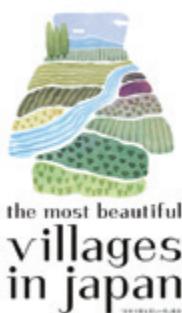
飯館中学校の3年生。こども園・小学校・中学校が合同で開催した「いいたて子発表会「赤蜻祭」」で実行委員長を務めるなど学校生活でも積極的に活躍。4月からは福島市内の高校に進学します。



幼稚から大人までが通う「キクチジム」。写真はリング上でスパarringを行う菅野さんです。菊地さん（左）の動きに合わせてミットを狙いバシッと音を響かせます。

この1月からの復帰。大会出場も視野に、トレーニングを再開しました。

「大変なこともありますたが、学校では充実した1年を過ごしていました」と菅野さん。菅野さんの学年は、「飯館中の卒業証書をもらおう」と村内への通学を続けた学年です。「振り返ると、大きさを乗り越えた所に成長があつたと感じます。キックボクシングもれひに練習を続けて、いづれはプロとして活躍したい」と言葉に力をこめました。



飯館村は「日本で最も美しい村」連合に加盟しています。

● 絵本作家のいせひでこ先生による絵の授業におじゃましました。小学校の5・6年生が描いていたのは「心の窓」。私は、いいたて子の発想の豊かさと画力にすっかり魅了されてしまい、すべての窓をのぞいて歩きました。窓の世界に入り込み、それは楽しそうに描いていた子ども達。大きなキャラバスに並んだみんなの窓から吹く風に私の心も満たされました。（星）

級チャンピオンに。しかし、「これから」という時に菅野さんは怪我に見舞われます。

（編集後記）

福島県広報コンクールで広報いいたてが広報紙部門で佳作をいたしました。いつもいつも取材にご協力いただきていて皆さまのおかげです。記事の確認も〆切ギリギリになる」とむしゃばしば。ほんとうに皆さまおかげでございました。

広報いいたてを見れば村の動きや行事が分かり、懐かしい顔が見られて元気になる。そんな広報目指してこれからも、村の「笑顔」を届けてまいります。（木幡）

Jo